

あの日の朝焼け

★
看護職部門
入選

【滋賀県・外川昭子】

「朝焼けが
とてもきれいと

開けてくれし

看護婦の腫(め)に

外景(そと)も映りし」

これは私が患者さんから頂いて、
今でも大切にしている言葉です。

もう20年近く前、ナースになっ
て1年目の私はICU(集中治
療室)という大変な職場に配置さ
れ、さまざまな病気で生死の境を
彷徨(さまよ)う患者さんを目の
前に、毎日が緊張の連続でした。

ある夜のこと、私は深夜勤務で
手術後の患者さんを受け持つてい
ました。真夜中の病室には、心電
図モニターのアラームや人工呼吸
器の空気が響き、意識のある患
者さんの眠りを妨げます。その方
もその夜は眠れなかつたでしょう。
2時間ごとの検温をするたびに
目を開けて「ありがとうございます」と、私に
声を掛けて下さいました。

きつい勤務の中で、1つだけ楽
しみなことがありました。ICU
には東側に大きな窓があり、そこ

から見える朝焼けが夜勤で疲れた
私をいつも癒してくれるのです。

その日の朝も晴れてきれいな朝
焼けが見えました。私はカーテン
を開けて「ここから見える朝焼け
は、とてもきれいなんですよ」と、そ
の方のベッドを少し動かしてあげま
した。

するとその方は不意に涙をにじ
ませて、「こんなきれいな朝焼けを
見たのは初めてです。自分はこれ
まで仕事ひとすじで生きてきて、
病気になって初めて立ち止まった
気がする。この先の事を考えてと
ても不安な一夜だったが、おかげで
心が落ち着きました」と話されま
した。そして私から紙とペンを借り
ると、さらさらと何かを書いて「下
手な文章だけど……」と言いながら
私にその紙をくださいました。「あ
りがとう、これからも頑張つてくだ
さいね」という言葉を添えて。私が
初めてナースになって良かったと
思った瞬間でした。

あの朝、患者さんと見た朝焼け
は、その文章と共に今でもはつきり
と思い浮かべることができます。